5章　総合問題5

問題

【1】

解答

（1）　子供が自分と他人の区別を知ることにより，母親との原初の一体感を失うこと。
（36 字）

（2）　**e**　（3）「**全訳**」の下線部ⓒ参照。　（4）　No, he doesn't〔does not〕.

（5）「**全訳**」の下線部ⓔ参照。　（6）　**c**

解説

（1）　○ this loss「この喪失」

○何を喪失するかは of ～ 以下を参照する。

◇ this loss of the original or primary identification with the mother「母親との生来の一体感の喪失」《直訳》

○ of は目的格関係を表す。

→ lose the original or primary identification with the mother の名詞化表現

○ original *adj.*「①最初の；本来の　②独創的な　③原文の」

n.「①原物　②本人」＜ origin *n.*

○ primary *adj.*「①第1位の；主要な　②最初の　③本来の；元来の」＞ primarily *adv.*

○ original と primary という類似語を並べることによって，「本来の」という意味を強調している。

○ identification *n.*「①身元確認；同一であることの確認（証明）　②同一視；同一化；一体感；共鳴」

○ this は，前文の内容を受ける。

◇ *It is* only gradually *that* the small child begins to be aware of ～ and at the same time to be aware of …「子供は段々とだけ～や，同時に…にも気づき始める」《直訳》

○ It is ～ that … の強調構文。

○ gradually *adv.*「段々と；次第に；じわじわと」

○ begin to …「…し始める」

→ to … に2つの to be aware of ～ が続く。

○ be aware of ～「～に気づいている；～であることを知っている」

○ at the same time「同時に」

○「子供が自己を独立した存在として，また他人を別の存在として認識する。」ことは「母親との一体感を失う」ことにつながると述べられているので，このことを字数制限以内にまとめる。

（2）　○ a not-self「自分ではないもの」

＝自分以外のすべての物および人間

（3） ○ the frustration of finding that all wants are not immediately satisfied までが主部である。

○ the A of B「B という A」（‘同格’の of）

○ frustration *n.*「①挫折；失望　②欲求不満」

○ that ～ 以下は finding の目的語になる名詞節。

○ all wants are not immediately satisfied「欲望のすべてがすぐには満たされない」

○ want *n.*「①欠乏　②貧困；困窮　③必要　④必要なもの；欲望」

◇～ leads to the discovery that one is dependent upon others「～は，人は他人に依存しているという発見につながる」

○ lead to ～「（結果として）～となる；～につながる」

Ex. That will only *lead to* trouble.

（そんなことをすれば面倒なことになるだけだ。）

○ the discovery that …「…という発見」

○ that ～ 以下は the discovery の同格名詞節。

○ be dependent upon〔on〕～「～に依存している」

（4） ○ Does〔Do〕で始まる疑問文は，Yes ／ No で答える。

○「幼児の場合，自己の認識は，依存していることと無力であることを同時に認識することとは，まったく関係がないと筆者は主張しているだろうか。」〔設問の疑問文の意味〕

○「このような認識（＝自己が独立した存在であることの認識）が生じると，必然的に自分が他者に依存し，無力であることを同時に認識する」と述べられているから，答えは，「No, he doesn't.」となる。

◇ in the case of an infant the realization of separateness has nothing to do with the simultaneous realization of dependence and helplessness

○ in the case of ～「～の場合」

○ have nothing to do with ～「～とはまったく関係がない」

○ simultaneous *adj.*「同時の；同時に起こる〔存在する〕」

〔下線部の解説〕

◇ This realization of separateness leads,（挿入）, to anxiety and fear「自分が独立した存在であることを認識することは，結果として不安と恐怖につながる」《直訳》

◇ for,（挿入）, this realization is necessarily attended by the simultaneous realization of dependence and helplessness「というのも，この認識は，依存と無力を同時に認識させることを必然的に伴うからである」《直訳》→「というのも，このような認識が生じると，必然的に自分が，他者に依存し，無力であることを同時に認識するからである」

○ for「というのも～だからである」→「主節根拠」を導く接続詞

○ necessarily *adv.*「必ず；必然的に」

○ attend ～「①～に出席する　②～に仕える；～を世話する　③～を伴う」

＞ attendance *n.*，attendant *adj.*, *n.*

vi.「①言うことを注意して聞く　②仕える」

＞ attention *n.*, attentive *adj.*

（5）◇is also liable to realize the dangers attendant upon her departure

○ be liable to …「…しがちである；…しやすい」

cf. be liable to …〔for ～〕（…すべき〔～に対して〕法的責任がある）

Ex. I *am liable to* pay my debts.

（私は借金を支払う義務がある。）

○ attendant upon〔on〕～「～に付随する〔伴う〕」

（6）

a　ℓ. 17 The anxiety which the child exhibits often goes hand in hand with an increase in aggressive behavior（子供が示すそのような不安は，子供が次第に攻撃的な態度を示すことと密接な関係があることが多い）とあるので本文とは一致しない。

b　本文中に記述なし。

c　ℓ. 17 The anxiety which the child exhibits often goes hand in hand with an increase in aggressive behavior ― the tempers which are so common in the fourth and fifth years when the beginnings of independence make themselves manifest.（子供が示すそのような不安は，子供が次第に攻撃的な態度を示すことと密接な関係があることが多い。その攻撃的な態度は，子供の自立心の芽生えがはっきりと現れる４，５歳の時期にありがちな気性なのである。）とある。

この文における「子供が示す不安」とは，ℓ. 15 a child,（挿入）, may begin to exhibit anxiety about being left（置き去りにされることに対して不安を示し始める）で表現されている「置き去りにされることに対する不安」を指す。

また，ℓ. 22 It is also of value to look upon the anxiety as being related to the beginning of the child's emergence as a separate individual.（その不安を，子供が独立した個人としての特性を現し始めていることと関連があるとみなすことは重要である。）と述べられている。

以上のことを参考にすると，本文と一致することがわかる。

d　本文中に記述なし。

全訳

子供が自分自身を独立した存在として認識し，それと同時に，他人を自分とは別の存在だと認識し始めることは，もっぱら漸進的に行われる。恐らく，このように子供が生来持っている母親との一体感を失うことは，１つには子供が自分の肉体と外界との境界線があることを発見して，自己と空間との関係を認識することによって生じるのだろう。例えば，ある物体を蹴ることによって，子供は自分と自分ではない物体の両方が存在することを発見するのである。

欲求不満は，自己の発見には重要なものである。というのもⓒ欲望のすべてがすぐには満たされないということがわかるという欲求不満は，人は他人に依存しているのだという発見につながるからである。つまり，自分の思い通りにならない物体が存在することがわかる欲求不満によって，自分には肉体的限界があるということや，自分が共存しない外界や，自分

の力が制限される外界が存在することを，人は認識するのである。

このように自分が独立した存在であることを認識すれば，不安と恐怖を感じることになる，と私は思う。というのも，このような認識が生じると，幼児の場合，必然的に自分が他者に依存し，無力であることを同時に認識するからである。自分が母親とは別の存在であることを次第に認識するようになり，子供は，ⓔ母親がいなくなることに伴う危険を自覚しがちでもある。それまでは情緒的に安定していた子供が，置き去りにされることに対して不安を示し始めることに親は気づく時がある。親は自分たちが何か悪いことをしたのではないかと思う。しかし，たいていは，その子の変化を説明するような特定の外的要因はない。むしろそのような子供が示す不安は，子供が次第に攻撃的な態度を示すことと密接な関係があることが多い。その攻撃的な態度は，子供の自立心の芽生えがはっきりと現れる４，５歳の時期にありがちな気性なのである。子供の不安の１つの見方として，子供は自分の攻撃性が親を破滅させているのではないかと無意識に恐れている，と言うことができる。そして，これは，精神分析の通説といってもよいだろう。その不安を，子供が独立した個人としての特性を現し始めていることと関連があるとみなすことも，また重要である。子供はその攻撃性によって，親から自立するのである。したがって，子供の不安の原因は実際のところ，攻撃性によって引き起こされた恐怖なのである。しかし，この恐怖は，自分が両親を破滅させたという恐怖よりもむしろ，自分が見捨てられるという恐怖なのである。

注

ℓ.2 ◇It is probable that …「恐らく…だろう」

○ It は that ～ 以下を代表する形式主語である。

○ partly「一部分は；部分的には；ある程度は；少しは；幾分」

cf. partly because ～（１つには～という理由で）

ℓ.4 ◇by means of the child becoming orientated in space「子供が自己と空間との関係を認識することによって」

○ by means of ～「～（手段）によって」

○ orientated *adj.*「〔しばしば複合語を成して〕方向〔関連〕づけられた；志向性の；適応させられている」

＜ orientation：《心理学》「定位；指南力；見当識」

＝「自己と時間的・空間的・対人的な関係の認識」

→※医学部の出題では，このように専門用語が用いられることがある。

本文では，その他次のような心理学の専門用語が用いられている。

○ identification「《心理学》同一視；一体感；同一化；共鳴（して行動を共にすること）」

○ frustration「《心理学》欲求不満」

○ behaviour「《心理学》行動」

○ aggression「《心理学》攻撃性；敵対（心）」

◇the discovery of the boundaries of its own body

○最初の of は目的格関係を表す前置詞

→ discover the boundaries of its own body の名詞化表現

○２番目の of は‘所属’を表す前置詞。

ℓ. 6 ◇ therefore「それゆえに；したがって；その結果（= so)」
→本文では，ダッシュ以下が，‘理由・根拠’を述べる文である。

ℓ. 8 ◇ the frustration of finding intransigent objects ～は前文の the frustration of finding that all wants ～ を詳しく述べている文である。

◇ finding intransigent objects（leads）to the realization that ～ and that …「自分とは相いれない物体があることがわかることが（結果として）～と…という認識につながる」《直訳》

○（　　）が省略されているので，注意。

○ intransigent objects「自分とは相いれない物体」《直訳》→「自分の思い通りにならない物体」→ finding の目的語。

○ the realization that ～ and that …「～と…という認識」
→ the realization 以下に that ～ と that …という２つの同格名詞節が続いている。

◇ physical limitations「肉体的限界」

ℓ. 9 ◇ there is an external world with which one is not coexistent, and over which one's power is limited「自分が共存しない外界や，自分の能力が制限されてしまう外界が存在する」《直訳》
＜ there is an external world + one is not coexistent with the world
＜ there is an external world + one's power is limited over the world

○ be coexistent with ～「～と共存する」

ℓ. 15 ◇ hitherto secure「それまでは（情緒的に）安定していた」

○ hitherto *adv.*「今まで；従来；今のところ」

○ secure「①安全な　②確保された　③<u>不安のない；安心して</u>」＞ security *n.*

ℓ. 17 ◇ go hand in hand with ～「～と密接な関係がある」

ℓ. 18 ◇ the tempers which are so common in the fourth and fifth years when the beginnings of independence make themselves manifest「子供の自立心の芽生えがはっきりと現れる４，５歳の時期にありがちな気性」

○ the tempers は aggressive behavior と同格。aggressive behavior に具体的な説明を付加している。

○ temper *n.*「①<u>（習性的な）気質，気性</u>，（一時的な）気分，機嫌　②かんしゃくを起こした状態　③平静な気分」

○ which ～ 以下は the tempers を先行詞とする関係詞節。

○ the beginnings of independence make themselves manifest「自立の始まりが明らかになる」《直訳》

○ manifest *adj.*「<u>明らかな</u>」*vt.*「～を明らかにする」

ℓ. 20 ◇ it = child

ℓ. 21 ◇ this = it was afraid that its aggression had destroyed the parents

◇ the orthodox psychoanalytic view「正しい精神分析的な観点」《直訳》

○ orthodox *adj.*「①正統の；正しいと認められた　②伝統的な；月並みな　③（特に，宗教上の）正説の；正統派の（⇔ heterodox)」

ℓ. 22 ◇ It is also of value to look upon the anxiety as being related to ～「その不安を～と関係があるとみなすこともまた重要である」

○ It は to … 以下を代表する形式主語。

○ of「～の性質をもつ；～の」→‘記述’を表す前置詞

○ of の後には年齢・色彩・形状・寸法・価格・職業などを表す名詞がくる。
→抽象名詞がくる場合，「of ＋抽象名詞＝形容詞」となる。

○ ‘記述’の of

e.g. a man *of* courage ＝ a courageous man（勇気ある人）

This book is *of* no use（＝ useless）to me.（この本は私にとって価値がない。）

potatoes *of* my own growing（私が育てたポテト）

◇ the beginning of the child's emergence as a separate individual「独立した個人としての子供の出現の始まり」《直訳》

○ emergence *n.*「出現」＜ emerge *vi.*

ℓ. 23 ◇ *It is* by means of its aggression *that* ～ and so *it is* indeed the fear caused by aggression *that* …：It is ～ that … の強調構文。

ℓ. 25 ◇ this fear is more that of being abandoned than that the parents have been destroyed「この恐怖は，自分が両親を破滅させたという恐怖よりも，むしろ，自分が見捨てられるという恐怖なのである」

○ more A than B「B というよりむしろ A」

（＝ not so much B as A；A rather than B）

Ex. He is *more* lucky *than* clever.

＝ He is *not so much* clever *as* lucky.

＝ He is lucky *rather than* clever.

（彼は抜け目がないというよりはついているのだ。）

◇ that of ～ ＝ the fear of ～

○ that は「反復語の代用」としての代名詞。

Ex. The temperature here is higher than *that* of London.

（ここの気温はロンドンより高い。）（that ＝ the temperature）

○ 2つ目の that は the fear の同格名詞節を導く接続詞。

【2】

解答

b，d，g，j

解説

a 「アテネでは例外なくすべての市民が，すべての問題について発言し，投票することができた。」の意味。ℓ. 5 には This didn't include women or slaves（これには女性や奴隷は含まれていなかった）とあるから内容に合わない。

b 「アテネ型の市民参加方式を採用すると，政治を非常に重要なものとすることになる。」第3段落第2文の内容（This kind of participation … as important …）と一致する。

c 「感情のからんだ抽象概念は，民衆によって賢明に議論されている。」これは第４段落第５文の These ～ aren't influenced by sensible public discussion.（～は賢明な民衆の議論に影響されない。）と異なっている。

d 「筆者によれば，すべての人々は歴史から感情的な傷を受ける。」第４段落第７文の History 以下の内容に該当する。

e 「右翼は直接民主制によって，恵まれない地域社会の利益を守った。」このような記述はない。第５段落を参照。直接民主制の議論は右翼から持ち出されてきたが，それは自分たちの利益のためである。

f 「慎重な思慮の過程はぎこちないもの，懐疑，無駄な時間，誤りに満ちることにはなり得ない。」第６段落第５文に注目。This process of serious deliberation（この深刻な審議の過程）は選択肢の The process of careful consideration と一致するが，本文では can't help but …（…せざるを得ない）と言っているのを単に can't …（…ではあり得ない）としたので，まったく違った内容になっている。

g 「偽の人民主義者は住民投票を都合のよい手段として常に好んできた。」これは第８段落第１文に The referendum has always been one of their favourite tools. とあるのと一致。their は第７段落第１文にある The false populists を受けている。

h 「新しい技術は我々が真の討論と住民投票を行うことの助けとなっている。」ℓ. 48 に As with referenda, they（= referenda）make real debate almost impossible とあるのと矛盾する。

i 「投票は民主的な手順を踏むことのなくてはならない目的である。」第 10 段落第２文には「投票は民主的な手順を踏むことにとってなくてはならないものであるが，それは目的ではない」とあるから一致しない。

j 「時代遅れの扇動政治家は生き残るために科学技術を利用してきた。」これは第９段落第１文と一致する。a new lease on life は「より長く生きられること」の意。

全訳

直接民主制は，2,000 年以上の間役に立たないできた興味深い思想である。この事実によって，直接民主制は，もともと本能的に反民主的な政治グループのお気に入りのものとなっている。

2,500 年前，アテネのアゴラ（市民広場）とエクレシア（市民総会）では，あらゆる問題について市民１人１人が発言し，投票することができた。これには女性や奴隷は含まれていなかったが，その当時や，その後近代に至るまでの他のどの文明社会と比べても，最も開放的で，最も一般市民の参加できるものであった。そしてアテネの民主制は実際に機能したのである。それは競争相手の制度よりもよく機能したし，いまや西洋文明として知られるようになったものをもたらした。とはいえ，アテネでは４万人しか有権者はいなかったし，そのうち常に参加したのは，5,000 人から 6,000 人であった。

このアテネのモデルは，例えば，小さな町や，教育委員会のような特別な領域において，人々がアテネの人々と同じだけの時間とエネルギーをかけようという意志があるならば，今でも機能することができるだろう。この種の参加は，政治を家庭や仕事と同じくらい生活において重要なものとし，個人的楽しみよりもはるかに重要なものとすることを意味するだろう。

直接民主制を推進する人々は，小さな町について大いに語るが，実際には小さな町になど関心がないのである。彼らが魅力を感じるのは，小さな町の神話的な話題である。彼らは何百万もの人々の不満が底流をなしているような大がかりな事態を好む。彼らは民族，言語，自由，安全，宗教上の罪，能率，個人主義といった大きなテーマが好きなのである。これらの感情のからんだ抽象概念は，賢明な民衆の議論に影響されることはない。それらは痛みを利用することによって活性化し得る。結局歴史は，我々みんなに感情的傷を負わせる。直接民主制の擁護者は，個人的な誤りがなされたという感覚が増幅するように，これらの感情の傷をかきとってしまうのである。もしこれらの傷がおびただしく出血するほどのものになるなら，民衆の賢い実際的な性質も動揺することになろう。

地域の民族主義を空想的に描いたものを，新保守主義経済政策への実際的な支持に結び付けることをなんとかやってのけている，奇妙さをますます増してきた右翼陣営から，過去半世紀にわたって直接民主制の議論が持ち出されてきた。言い換えると，彼らの言葉は，自然発生的にまとまった小さなグループを思い起こさせる一方，彼らの政策は，最も醜い種類の競争が支配して，それによってそのグループの利益を勝手にさらってしまうことを想定している。これらの矛盾はまことに目に余るものであって，因果関係は混乱のうちに見失われている。

新右翼は，市民は公共の事柄から除外されていると主張する。彼らの言うことは正しい。しかしこの除外の真の原因と折り合いをつける代わりに，彼らは偽の人民主義によって，この除外を利用している。彼らは大きくて複雑な社会における大衆討議の遅々としたやり口を非難している。この深刻な審議の過程はぎこちなく，また懐疑と無駄な時間と誤りに満ちたものにならざるを得ない。しかしこの非能率はそのまま公共の利益を表すものに変容するのである。

この偽の人民主義者たちは，うまくいかないことがあるといつでも，それが代議制民主主義の崩壊であるかのように攻撃する。彼らはより直接的な機構によってこの制度を乗っ取ろうと謀る。その機構は，考慮や間接的方法を省いているから，基本的に批判的，権威主義的である。彼らが求めるのは，よりたやすくコントロールできる構造なのである。

住民投票はいつも彼らのお気に入りの手段の１つであった。現実世界の複雑さも，長期間かかる実際的な進展も，変化しているさまざまな関係も，突然イエスかノーかを含む抽象的ではあるが明快なものに変化してしまう。科学技術はその後数十もの新しい手法を加えてきた。昔の英雄の集会が，電子装置によるコミュニケーションの発展と共に形を変え，広告と宣伝に様変わりした。つまりそれは討議というものを一方通行にした幻影である。「代表者」である聴衆が「人民主義的」質問をするテレビ討論会を使って，直接民主制の模倣をするために，電子公会堂集会が作られてきた。新しい技術が，無限に起こるテーマについて直接投票を可能にする。我々は，これらのシステムを支持する権威主義的活動に，持続的に圧力をかけられ始めているのである。住民投票に関して言えば，これは真の討議をほとんど不可能にはするが，扇動政治家が最も得意とする大きな感情的動揺を助長するのである。

時代遅れの扇動政治家も科学技術と結び付くことによって，より長く生きながらえてきた。彼らがこのコミュニケーション技術と共有するのは，直線状のものへ傾倒することである。疑問が出され，それが答えられる。問題が出され，それが解決される。そして答えや解決策

が出ないとなると，結論はそのシステムが失敗したということになる。

直接民主制は，投票することの重要性を強調することによって，市民を前に押し出すようである。もちろん投票は民主的な手順にはなくてはならないものであるが，それは目的ではない。熟慮，反省，懐疑，そして討議が，過去２，３世紀にわたって代議員集会の目的であったように，アテネのアゴラとエクレシアの第１の目的だったのである。この４つの過程が，民主制という文章の本体である。投票は単なる句読点にすぎない。適切に表現するなら，この文章の本体は，時には不確かな疑問符や，注意深い終止符や，また時には決定的な感嘆符が付くということは，ほとんど避けられないことになる。この本体がなければ，これらの符号は明瞭で刺激的であるが，意味を成さない。直接民主制は句読点にすぎず，言語の働きを拒否するのである。

注

ℓ. 16 ◇ undercurrent *n.*「（感情・思想などの）底流」
ℓ. 17 ◇ debt「（宗教・道徳上の）罪」
ℓ. 19 ◇ exploitation「利用；開拓」
ℓ. 20 ◇ proponent「提案者；擁護者」
ℓ. 22 ◇ profusely *adv.*「過度に；豊富に」
ℓ. 24 ◇ romanticize ～「～を非現実的に考える〔夢想する〕」
ℓ. 27 ◇ sway「支配；影響力」
ℓ. 28 ◇ flagrant *adj.*「目に余る」
ℓ. 31 ◇ exploit ～「～を利用する」
ℓ. 39 ◇ authoritarian *adj.*「権威主義の」
ℓ. 42 ◇ abruptly *adv.*「突然；不意に」
ℓ. 50 ◇ demagogue「扇動政治家」
ℓ. 56 ◇ cast a ballot「投票する」

【3】

解答

（1） with　（2） in　（3） at　（4） to　（5） with
（6） With　（7） on

解説

（1）「レースの最初の数マイルは，その女性走者は４人の男性選手に遅れずについていった。」
○ keep pace with ～「～に遅れないようについていく」= keep up with ～
‘同伴’を表す with。

（2）「彼はバス停にいる女性に歩み寄って，低い声で彼女に何かを言った。」
‘状態’を表す in。

（3）「これが私の電話番号です。家に帰ったらすぐに忘れないでこの番号で私に電話して下さい。」
○ call A at 電話番号「（電話番号で）A に電話する」
‘一点’を表す at。

（4）「大統領はその教授の政治学についての論文を評価し，彼をフィリピン共和国の大使に任命した。」

○ ambassador to ～「～（駐在）の大使」

‘方向’を表す to。

○ article「論文」

○ politics「政治学」

○ appoint O C「O を C に任命する」 目的格補語が唯一の役職の場合，通例無冠詞。

○ the Philippines「フィリピン共和国」

複数形の地名には the が付く。この the は‘総括’の the。

cf. the Alps（アルプス山脈）

（5）「それは大変素晴らしい案だ。私は全面的にあなたに同意する。」

‘同意・同調’を表す with。

Ex. I am *with* you here.（その点では君と同意見だ。）

○ all the way「完全に；全面的に」

（6）「利率が下がっているので，彼は銀行から預金をすべて引き出し，株に投資することにした。」

○ with O C（＝現在分詞）「O が C している状態で」〔付帯状況〕

○ interest「利子；利息」

○ withdraw ～「～（＝預金）を引き出す」⇔ deposit ～「～を預金する」

○ invest A in B「A を B に投資する」

○ stock「株；株式」

（7）「長期間の干ばつによって，その州の経済は打撃を受けている。」

○ have an impact on ～「～に影響を与える」

‘対象’を表す on。

○ drought [dráʊt]「干ばつ；日照り続き」

【4】

解答

（1） **d**　（2） **a**　（3） **b**　（4） **j**　（5） **h**　（6） **e**　（7） **c**

解説

（1） A：最近では，若い人々は結婚をあまりに軽く考えている。

B：ええ，（**d**）まったくその通りね。確かに彼らはあまりに軽く考えているわ。

○ you can say that again ＝ you said it「まったくあなたのおっしゃる通りです」

○ sure「確かに；まったく」〔副詞〕

○ do ＝ take marriage too lightly

（2） A：塀を修理してもらったらどうですか。またはいっそのこと，自分で修理しなさいよ。

B：とんでもない。（**a**）私は無器用なんだ。自分で修理できないよ。

○ all thumbs「無器用な」

○ Why don’t you …? ＝ Why not …?「…してはどうですか」

○ get O 過去分詞「O を…してもらう」
○ better yet〔still〕「いっそのこと」
○ just ＝ completely

（3） A：風邪を引きかけているの？
B：うーん。そうじゃないといいんだけど。（**b**）単に天候のせいだと思うよ。
○ It's just the weather.
○ just（この場合「ただ；単に」という意味）
○ come down with ～「～（病気など）にかかる」

（4） A：あのハンサムな男が大声で呼ぶと，彼女は少し赤面してすぐに彼の方へ走って行ってしまった。
B：そんなことを彼女がしたの？ まあ，（**j**）私はどんな男の子にもそのような行動をとったことはないわ。
○ no boy could ever make me act that way
（直訳）「私にそのような行動をさせることができた男の子はいない」
○ make O …「O に…させる」
○ right away「直ちに」＝ at once

（5） A：えっ！ ばかな！ もう閉まっている！
B：変だわ，（**h**）いつもならこの時間は開いているんだけど。他のスーパーマーケットへ行きましょう。
○ come on：軽い抗議をする場合に使う。

（6） A：テキサスではね，彼らの訛りを聞き覚えるのに１カ月かかったよ。
B：おや，（**e**）君はずいぶん早く慣れたじゃないか。僕は１年かかったよ。
○ get used〔accustomed〕to ～「～に慣れる」
○ it takes A（＝人）～（＝時間）to …「A（＝人）が…するのに～（＝時間）かかる」
＝ it takes ～（＝時間）for A to …
＝ A takes ～（＝時間）to …
○ pick up ～ ＝ learn ～

（7） A：大変申し訳ない。あなたの手紙を投函するのを忘れてしまった。
B：（**c**）またやったのか。君はしょっちゅう物忘ればかりしているね。
forget は「忘れている」という意味ではふつう進行形にしないが，反復的・常習的行為を表す場合は進行形も用いられる。

【5】

解答

ⓐ **c**	ⓑ **a**	ⓒ **d**	ⓓ **b**	ⓔ **a**
ⓕ **b**	ⓖ **c**	ⓗ **b**	ⓘ **a**	ⓙ **d**

解説

ⓐ父の 'But you have only known each other for a month!' という言葉に対して反撃する言葉を選ぶ。matter は「重大である」の意味の自動詞で，**c** What does it matter?「それ

がどうしたというの？」は決まり文句。この場合の what は「どれほど」という意味の副詞である。

a，**d** 「なぜあなたのことが問題になるのですか。」

b 「どうしたの。」〔心配して問われる表現。〕

ⓑ父がアマンダの前の相手について「6カ月付き合っていた」と言って，今の相手の1カ月よりずっと長い期間であったことを強調しているから，**a** at least「少なくとも」が最もふさわしい。

b no more than ～ = only ～

c less than ～「～よりも短く」

d at most「せいぜい」

ⓒ「それはどれだけ長く付き合ってきたかという問題ではない」という意味が考えられる。この「問題」に当たる語は，**b** a topic（話題）や **c** a discussion（討議）ではない。**a** a problem と **d** a question ではどちらがよいだろうか。

○ problem

① 疑問詞とともに使えない。

② 解決が困難という意味合いで，選択の余地がない場合。

Ex. I passed the entrance exam for Tokyo University of Foreign Studies. *The problem* is that my father orders me to go to Waseda.
（東外大に受かった。問題は父が早大に行けと言っていることだ。）

③ 理数系の問題に用いられる。

Ex. Solve the mathematics *problem*.（その数学の問題を解け。）

○ question

① 疑問詞とともに用いられる。

Ex. Whether you like English or not is not a big *question*.
（英語が好きかどうかは，大問題ではない。）

② 選択の余地がある時。

Ex. I passed the entrance exams for Tokyo University of Foreign Studies and Waseda. *The question* is which I should go to.
（東外大と早大に受かったが，問題はどちらに行くべきかということだ。）

③ 文系の問題に用いられる。

Ex. Dr. Aramaki answered the *question* on world history perfectly.
（アラマキ博士はその世界史の問題に完璧に答えた。）

空所の後の of は‘同格’の of で，その後は how long ～という間接疑問文になっている。疑問文を受けて「問題」という場合は question である。

ⓓアマンダの ‘he is so different from others!’ という強調を受けて，父親がそれに疑念を示すところである。よって，‘Oh, he is different,’ は本心ではなく，娘の言葉をオウム返しにしたのである。その後には「そうだろうか？」という疑念の言葉が続く。**a** isn't he? では「違う」ということに同意したことになる。**b** is he? なら「実際（本当に）そうだろうか」という疑いの気持ちを表せる。**c**，**d** は否定文で肯定の気持ちを表すので不可。

ⓔアマンダが母に「…と言ったでしょう？」となじっているところ。ここでも **a**　didn't I tell you …? のように，否定疑問によって強い肯定を表すことができる。母がアマンダに言ったという設定では，父親がいつも無理解だというアマンダの気持ちが表れない。you を主語にした **b**，**c**，**d** は不可。

ⓕ後の and opposes everything I do を受けて父の態度を形容する語を入れる。**a** indifferent「無関心な」**b**　rigid「頑固な」**c**　flexible「柔軟な」**d**　hardy「（身体が）頑健な」という意味なので **b** がふさわしい。

ⓖ「そんなひどいことをお父さんによく言えるわね。」と母がアマンダをたしなめているところ。この意味に当てはまるのは，**c**　How can you say という修辞疑問で can が必要。**d**　Why can't you say は肯定を強調し，「言えるじゃないの」という意味になる。

ⓗ **a**　Hold your breath「息を止めろ，息を殺せ」**b**　Hold your tongue「黙りなさい」**c** Hold your head「うなだれるな」**d**　Hold your sides「両脇をかかえなさい」（笑う時の状態を示す）の意味になり，この場合 **b** がふさわしい。

ⓘ「さあ冷静になって話し合いましょう。」と母が提案した言葉。**c**　argue「論争する」は不適当。**a**　discuss「話し合う」はよいが，これは他動詞なので **b** は×。

ⓙ「アマンダはどうせ結婚するつもりなのだから，…する方がよいですよ。」と夫に勧めているところ。might as well …「（どちらかと言えば）…する方がよい；…するのも悪くはない」は選択的に勧める時に用いられる表現である。前の言葉から，同意を勧めるととるべきである。**d** の live with は accept；endure の意味なので，**d** は「それ（＝アマンダの結婚）を認めるようになる」となる。**a**「一晩中議論する」**b**「彼女に駄目だと言う」，意味を成さない **c** はいずれも不適当。

全訳

母　　：あなた，アマンダが何かあなたに言いたいんですって。
父　　：そう，何だね？
アマンダ：ピーターに結婚を申し込まれて，承諾したの。お父さんも賛成してくれるわね。
父　　：何だって？　お前たち知り合ってからまだ１カ月しかたっていないじゃないか！
アマンダ：それが何だっていうの？　私たち結婚できるくらいよく知り合っているわ。
父　　：この前お前が結婚したいと言った時，その相手とは少なくとも６カ月は付き合っていたよ。
アマンダ：付き合った長さの問題じゃないわ。とにかく彼は他の男性とは全然違うのよ！
父　　：ほう，彼は違うって！　お前何度同じこと言ったと思ってるんだ？　ジョンがそうだったし，ジョンの前には……
アマンダ：お母さん，お父さんに認めてもらおうとしても無駄だって言ったでしょう？　いつだってお父さんはとても頑固で，私のすることには何にでも反対するんだから。私初めからわかっていたわよ。
母　　：実の父親に向かってそんなひどく言うなんて。口を慎みなさい！　さあみんな冷静になって話し合いましょう。
父　　：私は断固反対だ。絶対認めんからな。
母　　：あなた，どうせアマンダは結婚するでしょう。認めてあげたらいいでしょうに。

【6】

解答

（1） finding　（2） of　（3） in　（4） were　（5） seem

解説

本問は，内容と形式の両面から考えなくては，短時間に正解は得られない。

（1）「発見とは，『誰が発見したのか』という問いを発することが妥当であるような類のプロセスではない。」

finding（発見）をとると意味が通じる。

Discovery is not the sort of process

about which the question is appropriately asked.

‖

“Who discovered it?”

○ the sort of process about which ～「～の類の〔ような〕プロセス」

appropriately は the question “Who discovered it?” is asked を修飾。

（2）「新たな現象を発見するということは，必然的に，複雑な現象――物の存在とその物の本質の両方の認識を伴う現象――である。」

of をとれば内容・形式の両面から見て，正しい文となる。

Discovering a new phenomenon is（necessarily）a complex event.

S　V　C　同格

one（= an event）

which involves recognizing

both　that something is（= exists）

名詞節を導く接続詞

and　what it is

both that something is and what it is は recognizing の目的語。

（3）「科学は，理論と事実をより一層綿密に絶えず一致させようとするものであるし，また，そうでなくてはならない。そして，その活動は，検証すること，すなわち，真であるか偽であるかを調べることと考えることができる。」

in をとれば内容・形式の上から正しい文となる。

Science { does / and / must } (continually) try to bring [theory and fact] into [closer agreement]

[and]

that activity can be seen { as testing / [or] / as a search for { confirmation / [or] / disconfirmation }

○ bring A into B「A を B の状態へ至らせる」
A = theory and fact, B = closer agreement

○ closer agreement (than before)

○ be seen as = be regarded as

○ confirmation < confirm = establish the truth or correctness of (something previously believed or suspected to be the case)

○ disconfirmation < disconfirm = show that (a belief or hypothesis) is not or may not be true

(4)「発見は，科学者がさらに広範囲にわたり自然現象を解明したり，さらに精度をあげてそれまで未知だった物のいくつかを解明したりすることを可能にするのだ。」

1語付け加えてよいというのであれば，those which were previously unknown となるが，1語取り除くのであるから were を取り除いて those previously unknown としなくてはならない。

Discovery makes [it] possible
‖
for scientists { to account for a wider range of natural phenomena / [or] / to account (with greater precision) for some of those ← previously unknown

○ a wider range of natural phenomena (than before)
phenomena は phenomenon の複数形

○ with greater precision (than before)

(5)「ニュートンの第二運動法則は，完成されるまでに何世紀にもわたる事実や理論に基づいた研究を要したが，ニュートンの理論に身を捧げる人々にとっては，いかなる検証を行っても偽であることは証明できない，100%論理的な命題のように機能している。」

behave は完全自動詞なので，後ろにくるのは副詞のみ。したがって，seem をとらなくてはならない。

Newton's second law of motion (S)
{, though it took centuries of difficult factual and theoretical research to achieve,}
behaves (V)

〔for those
↑ committed to Newton's theory〕

〔very much like a purely logical statement
↑ that no amount of observation could prove（to be）wrong.
仮定法（条件は no amount of observation）〕

○ commit A to B「A を B に捧げる」

○ prove O（to be）C「O が C であることを証明する」

○ behave ＝ work

※「振る舞う」が擬人化されて「扱われている」となったと考えてもよい。

【7】

A.

解答

（1） I should have done this earlier.〔This should have been done earlier.〕

（2） I haven't paid for this book yet.〔I haven't yet paid for this book.〕

（3） It does not matter whether you win or not〔lose〕.

（4） He took off the cover〔took the cover off〕to see what it was.

解説

（1）「…すべきだった」に当たる表現は should have 過去分詞。「もっと早く」は earlier が与えられている。日本文では主語が書かれていないが，主語は 1 人称と考えるのが普通なので，I should have done this earlier. となるが，「これはもっと早くなされるべきだった」と受動態で考えて，This should have been done earlier. とすることもできる。

（2）「まだ…していない」は haven't 過去分詞 yet，または，haven't yet 過去分詞。「～の代金を払う」は pay for ～。主語は明示されていないが，（1）と同様，1 人称単数と考えてよい。したがって，I haven't paid for this book yet.，または，I haven't yet paid for this book. となる。あるいは，（1）と同様，this book を主語とした受動態で考えて，This book hasn't yet been paid for. とすることも可能。

（3）「勝敗は問うところではない」は「勝つか負けるかは問題ではない」と解釈する。「…は問題でない」は，matter が与えられているので，it does not matter で表せる。「勝つか負けるか」は「～かどうか」の意の whether ～（or not）を用い，you win がすでに与えられているので，whether you win or not とすればよい。または，or not の代わりに，日本文のまま or lose としてもよい。

（4）「～を外す」は take ～ off だから，「彼はカバーを外してみた」は he took the cover off〔he took off the cover〕となる（「外してみた」はここでは単純に「外した」と考えてよい）。「何だろうかと」をどう表すかがポイントだが，what it was という語群がすでに与えられていることから，「それが何であるかを見る〔調べる〕ために」と読み換えて，to see what it was とする。

B.

解答

Many people have pointed out that cats seem to be quite intelligent creatures, but little is known as to in what ways they are intelligent and how intelligent they are.

別解 That cats seem to be rather intelligent creatures is something that many people have pointed out over a long period of time; however, in what ways and to what extent〔to what extent and in what ways〕they are intelligent creatures have yet to be determined.

解説

「…ということについては，かねてより多くの人が指摘している」に当たる英文の枠組みは，many people have pointed out（over a long period of time）that …，it has been pointed out by many people（over a long period of time）that …で表すのが一般的。

「猫がかなり知的な生き物であるらしい」の「猫」については，cats と複数形にする。「知的な」は intelligent。Intellectual は人間にしか用いられないので不可。

「生き物」は creatures，animals だが，ここでは特になくてもよい。したがって，この部分は cats seem to be quite〔rather〕intelligent（creatures〔animals〕）となる。

また，日本文の構造のまま，*That* … is something that many people have pointed out over a long period of time. としたのが**別解**。

「～についてはあまり知られていない」は，little is known as to ～を用いてもよいし，「～については未だ結論は出ていない」と考えて，～ have yet to be determined のように表すこともできる。また，最初の文で many people を使った場合は，「～について多くの人々はあまり知らない」と考えて，they hardly know ～としても，十分合格答案となり得る。

「どこがどう知的なのか」は in what ways〔respects〕they are intelligent and how intelligent they are，in what ways and to what extent〔to what extent and in what ways〕they are intelligent で表せる。

how，in what ways〔respects〕，to what extent の順序は口調によるので，特に気にしなくてよい。

【8】

ポイント

この文では，文脈にふさわしい語句の選択に注意してもらいたい。例えば「いつの間にか」「咲き出そうとしていた」「だめにする」「放し飼い」「いかに迷惑か」などをどう表現するかが問題となる。また，第２文はさまざまな文構成が考えられるので，他の表し方ができないかどうかいろいろと試してみるとよいだろう。

解答

The other day our neighbor's dog got into our garden unnoticed and ran all over the flower beds, spoiling most of the morning glories that were about to bloom. I wish dog owners would consider how much trouble their dogs cause when they let them run unleashed.

別解 The other day, the dog next door got into our garden without our noticing it, ran all through the flower beds, and destroyed almost all of the morning glories that were about to bloom. Owners of dogs should consider the problems their dogs are causing when they let them run free.

解説

第１文では日本文通りに時間の順序に従って，「隣の犬がうちの庭に入り込んだ」，「花壇の上を走り回った」，「咲き出そうとしていた朝顔のほとんどをだめにしてしまった」をそれぞれ並列関係の節として and で結ぶのが最も簡単。または最後の節を分詞構文で表してもよい。

第２文：

方法１：「飼い主」を主語，「考えるべきである」を動詞とし，「放し飼いがいかに迷惑かということ」を目的語とする。

方法２：I wish で文を始め，that 節を続けて「飼い主が放し飼いがいかに迷惑かを考えること」を目的語とする。

方法３：「方法２」を少し変えて ‘would like ＋～＋ to …’（～（＝人）に…してもらいたい）の形を使って，「放し飼いがいかに迷惑であるかを考えること」を to 不定詞で表す。

「隣の犬」our〔my〕neighbor’s dog，または the dog next door とする。

「いつの間にか」「私（たち）が気づく前に」ということ。副詞１語で unnoticed（気づかれずに）としてもいいし，句では without our〔my〕noticing it や without our knowledge などとなる。また「止めることができる以前に」と考えて，before we could stop it も可。

「花壇の上を走り回る」run all over〔through；around〕the flower beds とすればよい。

「咲き出そうとしていた」be about to …を使って「まさに…しようとしている」を表現すると最もぴったり合う。「咲く」は bloom；come out など。

「～をだめにする」ruin ～や spoil ～，destroy ～が適切。あるいは文脈から「～を踏みつける〔踏みつぶす〕」と考えて trample（down）～のようにしてもよい。

「飼い主には考えてもらいたい」

方法１：「飼い主」を主語として dog owners should〔ought to〕realize〔consider〕…のようにする。

方法２：I wish で始め，dog owners would consider …と続ける。

方法３：I would like dog owners to consider …のように表す。

「放し飼い」直接これに相当する名詞は英語にはないので，unleashed（ひもでつながれていない）を用いるか，「（犬を）自由に走り回らせておく」のように考えて，例えば let ～ run loose〔free；unleashed〕とする。

「～がいかに迷惑か」

方法１：「彼らが犬を放し飼いにすると，犬がいかに迷惑を引き起こすか」と読み換える。「犬がいかに迷惑を…」は how much trouble their dogs cause や how much of a nuisance it is のようにする。これらの後ろに「犬を放し飼いにすると」を when 節で続ければよい。

方法２：「方法１」を少し変形して，how much it bothers their neighbors to let their dogs run loose のように，「放し飼いにする」を形式主語 it で受ける to 不定詞で表すこともできる。

方法３：少し発想を変えて，the problems their dogs are causing to their neighbors（彼ら

が近所の人に引き起こしている迷惑）を consider〔realize〕の目的語とし，次に when they let their dogs run free（犬を放し飼いにすると）を置く表し方もある。

【9】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第２版』の参照番号を示す。

（1） ignorant of ◆510
○ be ignorant of ～「～を知らない」

（2） worthy of ◆514
○ be worthy of ～「～に値する」

（3） possessed〔obsessed〕with〔by〕 ◆519
○ be possessed with〔by〕～「～にとりつかれている」
cf. be *possessed* of ～（～を所有している）（文語） = possess ～ ◆518
cf. *possession*（所有（物））

（4） sick〔tired〕of ◆521〔◆541〕
○ be sick of ～「～に嫌気がさして〔うんざりして〕」
= be tired of ～；be disgusted by〔at；with〕～；be fed up with〔about〕～

（5） true of〔applicable to〕 ◆522
○ be true of ～「～に当てはまる」
cf. hold true〔good〕「当てはまる；有効である」
cf. true to ～「～に忠実〔誠実；正確〕な」

（6） particular about〔over〕〔〔fastidious in〔about〕〕 ◆526
○ be particular about〔over〕～「～について好みがうるさい」

（7） based〔founded；grounded〕on ◆529
○ be based〔founded；grounded〕on ～「～に基づいている」

（8） familiar with〔acquainted with〕 ◆532〔◆535〕
○ be familiar with ～
①「～に精通している」②「～と知り合いである」= be well informed about ～；have a thorough knowledge of ～；know ～ thoroughly；be acquainted with ～；be at home with〔in〕～

（9） familiar to ◆533
○ be familiar to ～「～によく知られている」

（10） acquainted with〔to know〕 ◆535
○ be acquainted with ～「～と知り合いである」
○ get to know ～「～を知るようになる」

（11） wrong with ◆537
○ something is wrong with ～；there is something wrong with ～「～はどこか具合が悪い」
e.g. What *is wrong*〔the matter〕*with* ～？（～はどうかしたのですか。）

(12) concerned about〔for；over；at〕〔worried about；anxious about〔for〕〕 ◆539〔◆490〕

○ be concerned about〔for；over；at〕～「～を心配する」= be worried about ～；be anxious about〔for〕～

cf. be *concerned* with〔in〕～（～に関係〔関心〕がある） ◆538

(13) fit〔suitable〕for〔appropriate for〔to〕〕 ◆542〔◆543〕

○ be fit for ～「～に適している；～の準備が整った」

(14) rich〔abundant；affluent；plentiful〕in ◆548

○ be rich〔abundant；affluent；plentiful〕in ～「～が豊富である」

(15) short of ◆551

○ be short of ～「～が不足している」

(16) independent of ◆552

○ be independent of ～「～から独立している」

⇔ be dependent on ～「～に依存している」◆553

＜ depend on ～「～に頼る」

(17) free from ◆555

○ be free from〔of〕～「～（＝心配・苦痛・面倒など）のない」

○「当然義務的に負うべきものが免除されて」の場合には of が好まれる（税金等）。

(18) free to ◆557

○ be free to …「自由に…することができる」

(19) indifferent to〔uninterested in〕 ◆558

○ be indifferent to ～「～に無関心で」

(20) second，none ◆562

○ be second to none「誰にも劣らない」（←誰の２番目でもない）

○ as far as S is concerned「S に関する限り」